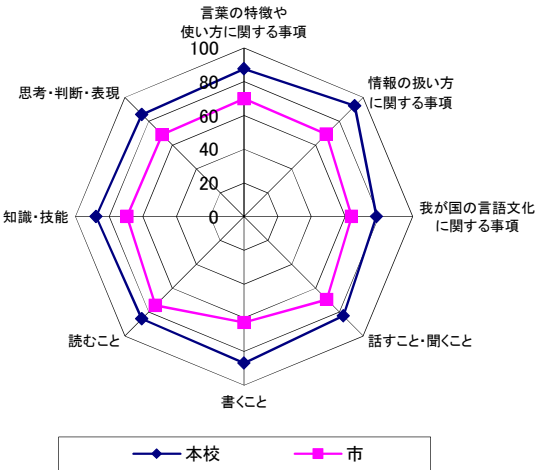


宇都宮市立城山西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	87.7	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	92.9	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	83.3	69.5	71.5
	書くこと	86.9	62.8	67.1
	読むこと	85.7	74.4	73.7
観点別	知識・技能	87.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	85.7	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

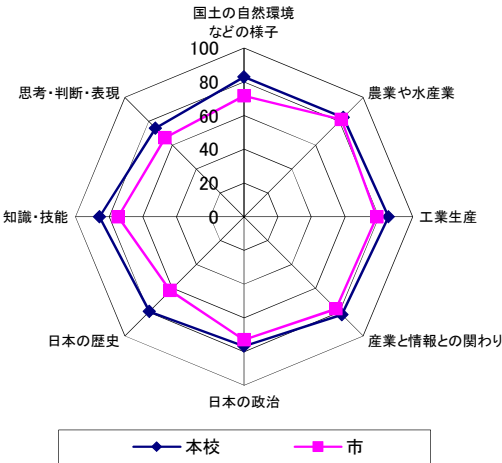
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	本領域の正答率は87.7%で、市の平均を大きく上回った。 ○漢字を書く設問や2段落構成で文章を書く設問における正答率は、20%以上市の平均を上回り、学習内容がしっかり定着していた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国語の授業のみならず、他教科における話し合いや学級活動の話し合い活動の中で、話の内容を明確に伝えるためにはどのようなことに気を付ければよいかを意識して話し合いをさせる。 ・話し合い活動の中で、司会者は出された意見をまとめるために、どのようなことに気を付ければよいかを意識して司会させる。
情報の扱い方 に関する事項	本領域の正答率は92.9%で、市の平均を非常に大きく上回った。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する短答形式の設問の正答率は100%で活用力がしっかり身についていた。	・国語の日記・作文指導のみならず、他教科においても文章を書く活動を多く取り入れていく。その際、文の長さや段落構成など、決められた条件の中で自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章化する活動に、繰り返し取り組ませていく。また、賛成しない意見に反論する文章を書く機会を、意図的に作っていく。
我が国の言語文化 に関する事項	本領域正答率は78.6%で、市の平均を大きく上回った。 ○和語、漢語、外来語について問う唯一の設問の設問であったが、おおむね良好であった。	・朝の読書指導や読書週間などを通して、幅広い内容の本に触れる機会を多く作る。また読んだ本を「おすすめの本」として友達に紹介する機会を作る。 ・説明文の内容を読み取り、自分の力で要旨をまとめる学習に繰り返し取り組ませる。
話すこと・聞くこと	本領域の正答率は83.3%で、市の平均を大きく上回った。 ○インタビューの内容を聞き取るための質問の工夫についての設問や、自分が聞こうとする意図に合った内容を記述する設問における正答率が市の平均を大きく上回った。	・引き続き、国語科会話科、総合的な学習を中心に、友達や教師、講師の先生の話の聞いたり質問したりする中で自分の目的に合った情報を収集する学習を多く取り入れていく。
書くこと	本領域の正答率は86.9%で、市の平均を非常に大きく上回った。 ○書くことに関する1つを除くほぼすべての設問について市の平均を大きく上回っており、学習内容がしっかりと身についていた。	・国語の日記・作文指導のみならず、他教科においても文章を書く活動をこれからも多く取り入れていく。その際、文の長さや段落構成など、決められた条件の中で自分の考えやその理由を事例を挙げながら文章化する言語活動を行っていく。
読むこと	本領域の正答率は85.7%で、市の平均を大きく上回った。 ○説明文の内容を読み取る設問や、物語文の登場人物の心情について描写をもとに捉える設問において、市の平均を大きく上回った。	・物語文の読解の授業において、本文の中で登場人物の心情や行動が表れている文に線を引きながら読んだり、そのときの心情を話し合ったりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	82.9	71.6	67.5
	農業や水産業	83.3	81.5	82.1
	工業生産	85.7	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	82.1	77.2	68.2
	日本の政治	76.8	73.1	77.9
	日本の歴史	79.5	62.0	65.8
観点別	知識・技能	85.7	74.6	74.5
	思考・判断・表現	74.3	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

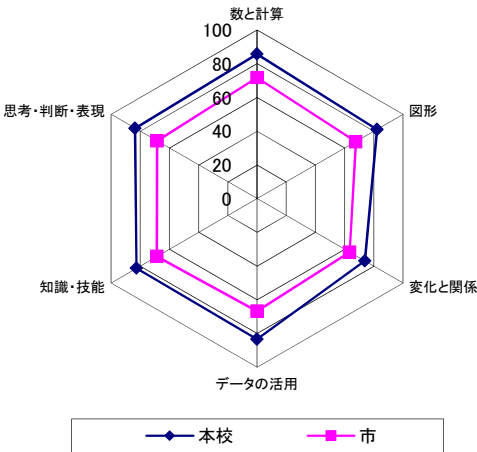
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本領域の正答率は82.9%で、市の平均を大きく上回った。 ○日本の主な地形名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る設問において、市の平均を大きく上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日頃より新聞やニュースなどを教材として取り入れ、学習内容と関連させて考える活動を位置付けるなどして、国土の気候の様子や地形の様子などについての理解をより確かなものにしていく。
農業や水産業	本領域の正答率は83.3%で、市の平均と同等であった。 ○農業施設設備の名称についての設問では、市の平均を大きく上回った。 ●都道府県の位置と農産物の産地の理解を基に適切な地図を判断している設問の正答率が、市の平均と比較し8.2ポイント下回った。複数の資料に着目して、資料を読み取る設問において、市の平均を下回った。	・資料を活用する際は、設問の内容を理解し、必要な情報は何かを吟味しながら考えられるようにしていく。そのために、表やグラフの正確な読み取り方や活用方法等を算数や理科などの他教科においても適宜指導する機会を設けていく。 ・都道府県の所在地については、定期的に白地図等で確認し、定着を図る。
工業生産	本領域の正答率は85.7%で、市の平均を上回った。 ○日本の輸出品の資料を読み取る設問において、正答率が市の平均を大きく上回った。	・工業生産に関する学習において、資料を活用する際は、関連する要素やその分布などに着目できるよう、視点を与えて資料提示する。さらに、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し表現するような課題を与え、思考力・表現力を育てていく。
産業と情報との関わり	本領域の正答率は82.1%で、市の平均をやや上回った。 ○小売店業者の発注システムについての設問では、正解率が市の平均を上回った。	・情報メディアについて自らの体験を想起させ、学習内容と関連付けることで、情報社会の中で情報を適切に調べまとめる技能を身に付けたり多角的な思考や理解をしたりできるようにしていく。
日本の政治	本領域の正答率は76.8%で市の平均をやや上回った。 ○税金に関する設問において、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●日本国憲法についての設問では、正解率が市の平均を下回った。	・基礎的な内容の定着が十分図られていたことから、今後は授業や自主学習において積極的に政治に関するニュースを取り上げたり、我が国の政治の仕組みや働きについて理解を深めたりできるようにしていく。 ・日本国憲法については、条文を調べるなど、自分たちの言葉でしっかりと理解できるような学習を行い、自分たちの生活が法の下に守られていることをしっかりと理解できるようにおさえていく。
日本の歴史	本領域の正答率は79.5%で、市の平均を大きく上回った。 ○時代背景に着目しながら考えたり判断したり資料を読み取る設問において、正答率が市の平均を大きく上回った。	・歴史に関する話題を取り上げる機会を設け、歴史への興味・関心をさらに高め、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を育む。 ・授業の中で、キーワードを示してまとめを行ったり、自分で表現したことを互いに伝え合ったりするなどの言語活動を充実させ、表現力を高めていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	85.7	71.8	76.2
	図形	82.1	67.7	67.8
	変化と関係	73.8	63.4	62.7
	データの活用	83.3	66.7	61.5
観点別	知識・技能	82.5	68.6	70.7
	思考・判断・表現	83.6	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

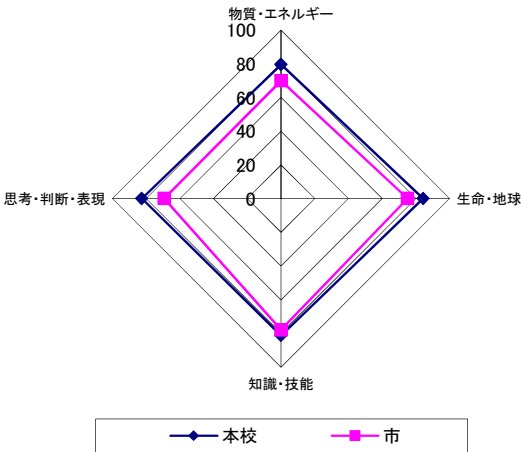
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本領域の正答率は85.7%で、市の平均を大きく上回った。 ○基礎的な計算の設問において、どの設問も市の平均を上回っており、おおむね理解できていた。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ設問では、正答率が100%だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習等を利用して基礎的な計算の定着に向けた練習を繰り返し行い、確実な定着を図っていく。 ・文章問題や記述を要する設問について、複雑な問題でも解決する力を身に付けられるよう、児童の実態に応じて習熟度別学習なども取り入れて個に応じた指導の充実を図っていく。
図形	本領域の正答率は82.1%で、市の平均を大きく上回った。 ○2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める設問では、正答率が100%だった。 ●円を使った図形の面積の求め方を説明する設問において、市の平均を上回っているものの、正答率がやや低かった。	・基礎的な設問の正答率が高いことから、今後も補充プリント等を活用して習熟を図っていく。 ・作図をしたり、発展的な設問を解いたりして、体験的に図形についての理解を深められるようにする。
変化と関係	本領域の正答率は73.8%で、市の平均を大きく上回った。 ○単位量あたりの大きさ・速さ、割合の設問において、どの設問も市の平均を上回っており、おおむね理解できていた。 ●割合を求める求める設問において、市の平均を上回っているものの、正答率がやや低かった。	・基礎的な設問は習熟度別学習を積極的に活用し、個に応じた指導を取り入れながら、補充プリント等を活用して発展的な問題の習熟を図っていく。 ・混み具合の設問において正答率が高かったので、今後も朝の学習などで基礎的な学習を繰り返し行っていくようにする。 ・割合の問題は、何を求めるのか、グラフや図などに表し、視覚的に理解した上で立式できるようにする。
データの活用	本領域の正答率は83.3%で、市の平均を大きく上回った。 ○中央値を読み取る設問において、市の平均を大きく上回った。 ●グラフの割合から比較量を求める設問や、選んだ解答に対してその判断の理由を記述する設問において、市の平均を上回っているものの、正答率が低かった。	・基礎的な設問の正答率が高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。 ・グラフや文章の読解力が必要な設問、記述式の設問の正答率が低いことから、様々な出題形式の問題に取り組む機会を多くとり、文章問題に対する抵抗感をなくすとともに、出題の条件に合った形で文章で答える経験を多く積みせていくようにする。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	79.6	69.9	67.8
	生命・地球	84.3	75.1	73.7
観点別	知識・技能	81.2	77.8	78.4
	思考・判断・表現	82.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本領域の正答率は79.6%で、市の平均を上回った。 ○ふりこが1往復する時間とふれはばの関係を調べるための対照実験を計画する設問では、市の平均を大きく上回った。 ●物のとけ方での溶け残った食塩をすべてとかす方法についての設問で、市の平均を大きく下回った。	○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・一人一実験をベースにし、できるだけ少人数で実験を行うことで、主体的に学習が行えるようにする。また、実験結果を基にした課題解決に向けての話し合い活動では、グループ活動を中心とする。その際、話し合いから生み出された疑問をさらに解決するために、試行錯誤を繰り返せるような授業展開を心掛ける。
生命・地球	本領域の正答率は84.3%で、市の平均を上回った。 ○予想が正しかった場合に得られる結果を推測する設問では、市の平均を大きく上回った。 ●食物連鎖という言葉に答える設問では、市の平均をやや下回った。	・原理現象だけでなく、理科用語を正しく理解させるために、図や絵、言葉を用いてまとめさせるなど、ノート指導を工夫する。また、一人一台端末を用いて、学習の要点などをまとめさせ、発表させることで学習の定着を図る。

宇都宮市立城山西小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習指導の工夫改善	・授業における効果的な導入や発問の工夫 ・児童に学習課題をはっきり理解させ、見通しをもって課題にじっくり取り組ませる授業展開の工夫 ・授業終末または単元末の振り返り活動において、学んだことや考えたことを的確に表現する機会の充実 ・既習事項や他教科の学習・実生活との関わりを意識した学習の実施	・「学校の授業がよく分かる・だいたい分かる」と答えた児童がほとんどの学年において市の平均を上回った。今後も宇都宮モデルに基づいた全校的な取り組みを継続するとともに、特に振り返り活動の充実に努めていく。 ・多くの児童がテストでまちがえた問題を家で復習したり、習ったことを分かりやすくノートにまとめたりしており、良好な学習習慣が身に付いていると考えられる。
学びに向かう力の育成・個のよさを伸ばす学習指導の展開	・ハンドサインを活用した授業の展開 ・教師のコーディネート力の向上 ・朝の学習における個別支援の充実 ・一人一台端末を活用した学習の個別最適化 ・特別活動と各教科等を関連させたキャリア教育の推進	・勉強が好きという児童の割合が学年が下がるほど低い傾向にあった。これは、一般的な傾向とは真逆の結果である。多様な児童や家庭、およびそれに付随する価値観が存在していることがうかがえる。 ・「ふだんから不思議だなと思うことがある」という児童が、ほとんどの学年において大きく上回っており、日常生活と学習の関連付けができつつあると考えられる。その反面、「各教科の学習は将来役に立つ」と考えている児童は、市の平均と同程度または下回っていた。授業において学習内容と日常成果とを関連させる機会を設けていく必要がある。 ・「勉強をしていてできるようになったり分かったりすることは楽しい」「先生はがんばったことやできるようになったことを認めてくれる」と感じている児童がほとんどの学年で市の平均を上回っており、一人一人のよさを認め、学習意欲につなげることができていると考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎的な学習内容の定着を再度徹底するとともに、学習についての心構えや学習することの意義を児童が理解できるよう伝えていく。また、各種便りや学級懇談会、個人懇談、連絡帳などを活用して学校が意図していることを十分伝えられるよう努めるとともに、家庭との連携をさらに強化していく。

・教職員が教科間および、単元どうしのつながりを十分意識した学習活動の展開を行い、児童が既習事項や日常生活の課題と学習内容の関連性を認識できるようにはたらきかけていく。

・教師のコーディネート力の向上をはかり、児童が積極的に考えを発表したり、多様な考えに触れたりする機会を広げていく。